

—自然学習資料保存事業—

横山謙二



2003年に始まった保存事業の作業風景

自然学習資料保存事業（現在の標本・資料整理保存業務）は、消失や散逸が懸念される県内の貴重な標本の収集と保存を目的として、2003年10月から始まりました。当初は、緊急地域雇用特別基金事業にもとづく事業のため、作業員を7名以上雇用することが義務づけられ、その期間も2004年までの2年度限りのものでした。場所は、当時三島駅近くにあった県教育委員会三島分室で行われ、第1号の標本は静岡県自然史博物館設立推進協議会の代表で、当NPOの理事であった故伊藤二郎氏の植物標本でした。

こうして、2003～2004年度に行われた自然学習資料保存事業でしたが、2005年3月に一度終了することになりました。NPOでは2004年8月に県企画部に対し、保存事業の継続を要望しました。そして、2005年に静岡市清水区辻にあった健康福祉センター庵原分庁舎内に静岡県自然学習資料保存事業室を設置し、そこで標本の保存整理が行われることになりました。この頃の健康福祉センターの建物内には、保存事業の他に健康福祉センターと難病支援センターもあり、保存事業で使用できるのは1階と2階の一部の部屋だけでした。また、標本室は窓を遮光しただけの標本室で、標本を保存するには十分な施設ではありませんでした。

2008年度になると、健康福祉センター庵原分庁舎がなくなり、『自然学習資料保存事業室』は名称が改められ、『静岡県自然学習資料セン

ター』となりました。この頃になると、標本が約16万を超え、以前の標本室では標本を保存するスペースが十分でなかったため、庵原分庁舎が使用していた部屋まで、標本室を拡張しました。その後も、標本は続々と増えつづけ、すぐに標本室は満杯の状態でした。しかし、博物館設立の話はいつこうに進まず、標本が集まりつづけ、標本を整理・保管するだけの状態が2009年までつづきました。

2011年になると、県で自然史資料を活用した新たな活動拠点の整備の検討が始まり、その拠点施設の候補地として、元県立静岡南高校の校舎が上げられました。そして2013年になると、新たな活動拠点の整備計画は、県立博物館『ふじのくに地球環境史ミュージアム』へと具体的に博物館を設立する計画になり、保存事業で集められた標本は、このミュージアムの広い標本室に移転することが決まりました。このころの資料センターの標本は30万を超え、標本室はすでにいっぱい、一刻も早く新たな標本室への移転が望まれました。

そして、ついに2014年7月に、『ふじのくに地球環境史ミュージアム』の標本室の内装工事が終了し、8月に2005～2013年の8年間もの長い間、利用してきた資料センターからミュージアムへ引越しました。そして、9月からミュージアムの新しい標本室で、標本の整理・保存管理を行っています。

現在では2003年から始まった保存事業で集められたコレクションは、54コレクションにもなり、その標本数の合計は、30万点以上にもおよびます。それでも、ミュージアムの標本室には、スペースの余裕があるところもあり、標本の受入が可能な状態です。しかし、県内にはまだまだ寄贈されていない標本が多くあり、またこれから自然史博物館活動を行っていく過程でも、標本が増えていくと考えられます。これらの貴重な標本を未来に残し、博物館を利用する多くの人たちに、標本を活用していただけるように、今後も保存事業を継続し、標本の整理・保存管理を行っていかねばなりません。